

ナマステ

特定非営利活動法人
自然文化誌研究会 会報誌



131 号

2018 年 3 月 10 日発行号

本年もよろしくお願いします！！

活動報告

「冒険学校 まふゆのキャンプ」報告

12.26~28



まふゆのキャンプでは小菅村でたき火や星空観察、バードウォッチングなどをした。ぼくが心に残ったことはたき火だ。たき火のおかげで体も心もポカポカしたからだ。

3 日目の朝。起きる。寝袋から出た。体が凍り付くように寒い。外に出た。誰も起きていない。急いで火の近くへ行く。火が付いていなかった。はやく火を付けよう。ブルッ。ふるえた。

こうた君とやすつね君が起きて来る。一緒に火を起した。木に火が付かない。体が動かなくなりそうだ。火を起こす。付かなかった。クロちゃんがやって来る。

「かわいた薪を使っていいよ」

ぼくはかわいた薪を持って来た。今までのがウソのようだ。すぐ木に火が付く。ポカポカした。

初めての冬の小菅は凍り付いたけれど、楽し過ぎた。

(森下喜人くん 小学 6 年生)



この事業は 2017 年度 国土緑化推進機構「緑と水の森林基金」の助成を受けて開催しました。

「第 13 期ちえのわ農学校」 報告

報告と新年度の募集内容です。

サークルちえのわ 活動報告

こんにちは。東京学芸大学サークルちえのわ 2017 年度代表の菊池香歩です。私たち「サークルちえのわ」は、学芸大学構内の農園にて、子どもたちと食農文化体験の場をつくっています。近隣地域への公募により集まった 15 人前後の小中学生と、年間を通した活動を行っています。なお、サークル員は、INCH のキャンプにも参加し、学びにきております！

本日は、来年 14 期目へと突入する当活動「ちえのわ農学校」について、この場をお借りして、13 期の活動報告と 14 期の活動予定を報告させていただきます。

◇今年度の活動報告

まずは、今年度の参加者アンケートより……1 月の餅つきや春の筍ほり、秋の芋ほりなどは、今年度のちえっこ（参加者の子どもたちのことをこう呼んでいます。）に人気の活動でした。また、夏休みの一泊キャンプはたくさんの思い出ができたようです。なかでも、ヤマメさばきを挙げる子どもが多くいました。たしかに、はじめこそ「こわい」「いやだ」と言っていた子どもたちが、だんだんと真剣なまなざしでヤマメに向き合うようになっていく姿には、成長の瞬間を見る思いがします。わら工作や竹工作も毎年盛り上がりあつという間に時間が過ぎる行事です。〈自然〉に自ら手を加え、新たなものをつくりだすとき、ちえこたちの目は職人のようにきらりと光っています。

次に……先日行った谷川俊太郎展に感化されて、一年の企画を詠んでみました（笑）

4月 はじめまして押し花名札 みにつけて 春の農園 散策だ
 田植え 足袋ごしの どろの感触 にやり 気づけば全身 泥まみれ ドラム缶風呂で あったまろう
 梅雨 はれるかな 祈りながらの 草木ぞめ 紫陽花ツツジは 色よく染まる
 涼 あつい夏 流しそうめん 水でっぼう 全部手作り 竹だい活やく
 夏Ⅰ 収穫だ カレーを作ろう おいしいな 命と向き合う ヤマメ・イナゴ
 夏Ⅱ なんだろう おばけのちえっこ 隠れてる？ 魅力あふれる 夜の農園
 笑顔 お昼ごはん 今日は自分たちで 作るらしい 「働かざる者 食うべからず」
 黄金色 実った実った ちえのわ米 どうしてどうして 食べようか
 秋さがし まるいもの ぎざぎざのもの やきいも?! 私はこんな 秋見つけたよ
 にぎる なに入れよう みんなでにぎる ちえのわ米 炊き立て熱いな 手作りおにぎり
 最後の… 思い出が あちこちころがる 農園で 一年最後の 思い出作り

	4月	5月	6月	7月	8月(宿泊)	9月	10月	11月	12月	1月
	開校式	おやつ作り	草木染め	竹工作	ヤマメさばき	ピザ作り	ナイトハイク	お昼作り	さつまいも掘り	秋をみつけよう
	名札づくり	(柏餅・ちまき)	かしづくり		花火	燻製	(おばけ役)	かまどで	焼き芋	ビンゴ
	農園散策		梅シロップ		テント泊	ラジオ体操	(灯籠づくり)	米炊き		
	たけのご掘り		づくり		野菜ハンコ	叩き染め	燻製作り			
					宝探しゲーム	スイカ割り				
畑	夏野菜				収穫・カレー作り			冬野菜		
田んぼ	すごろく	田植え・泥遊び	笹ぶね	米粉のおやつ	イナゴ取り	イナゴの佃煮(朝ご飯)		稲刈り	脱穀・精米	おにぎりづくり

いつもどんなことでも温かく見守ってくださる保護者様をはじめ、支えてくださっている皆様のおかげで、ちえっこも学生も楽しく活動しております。今後ともサークルちえのわをよろしくお願いいたします。

2017 年度代表 菊池香歩(東京学芸大学 3 年生)



【第 14 期 ちえのわ農学校 参加者募集要項】

□活動要旨

正式名称：ちえのわ農学校

対 象：小学校 3 年生～中学校 3 年生までの男女 16 名前後（抽選有。）

スタッフ：東京学芸大学学生を中心に 30 名程度

場 所：東京学芸大学 環境教育研究センターおよび教材植物園(彩色園)

費 用：実費負担 15,000 円（食費、保険、材料費等）

主 催：東京学芸大学サークルちえのわ URL: <http://www.gakugei-chienowa.org/>（準備中）

共 催：NPO 法人自然文化誌研究会 URL: <http://www2.plala.or.jp/npo-inch/>

後 援：小金井市教育委員会

□2018 年度 年間予定

月 1 回の土曜日（全 10 回） 10:00～17:00（4～7 月）、10:00～16:00（9～1 月）

（日程・内容ともに変更する可能性があります。）

日程	4/21	5/12	6/16	7/14	8/25-26 (宿泊)	9/15	10/27	11/10	12/8	1/12
活動内容	開校式、農園散策、夏野菜種まき	田植え	かかし作り	竹工作	夏野菜料理、ヤマメさばき	冬野菜種まき	稲刈り	脱穀・精米	もちつき、稲わら工作	修了式
夏野菜の栽培						冬野菜の栽培				
田植えから脱穀・精米までの稲作体験 果物の調理・保存 自然を対象にしたあそびなど										

※活動内容で未定の部分もありますが、子どもたちのやりたいことを聞きながら決めていきたいと考えています。また自由時間や季節ごとの農園散策、おやつ作りなどを通して、子どもたちひとりひとりの、心と持った興味を大切に活動していきます。

□活動中の健康管理・安全管理について

健康管理

参加者の方に予め提出していただく「健康管理カード」により、食物アレルギーや既往症などの把握を行います。また、活動当日の朝にも健康状態を確認します。

安全管理

参加者は行事保険、スタッフはボランティア保険に加入します。活動中、農具の取り扱いなどは事前に指導を行ったうえで、特に注意します。また、緊急の場合に備え、応急処置の方法、近隣の病院やタクシー会社の電話番号を明記したマニュアルを作成しています。

○参加見込みとお問い合わせ

Tel：070-4159-3954（佐奈） E-mail: gakugei_chienowa@yahoo.co.jp

※お問い合わせ後、詳しい資料をお送りいたします。資料をご覧の上お申し込みをお願いします。

※お申込みの締め切りは、2018 年 3 月 29 日必着でよろしくお願い致します。

代表：東京学芸大学教育学部 3 年 櫻井優介（さくらいゆうすけ）

参加希望の方、まずはお問い合わせください！！

第 14 回通常総会の報告

2018.2.18

第 14 回通常総会に関しては紙面の都合上、2018 年活動予定と 2017 年決算報告のみ掲載しました。

2018 年度 特定非営利活動法人自然文化誌研究会 事業予定書 (2018 年 1 月 1 日～12 月 31 日)

月日	分類	事業	場所
1/20	共催	第 12 期ちえのわ農学校最終回	東京学芸大学環境教育センター
2/18	総会	第 14 回通常総会	小菅村
4/9	シンポ	第 40 回環境学習セミナー	山梨県上野原市 (雑穀街道)
4/21	共催	第 14 期ちえのわ農学校①	東京学芸大学環境教育センター
4/29	デイ	野草のてんぷらとお茶つみ	東京学芸大学環境教育センター
5/3-6	冒険	むらまつりキャンプ	小菅村
5/4	PPM	植物と人々の博物館 展示解説	第 31 回多摩源流まつりに合わせて
8/4-10	冒険	こすげ冒険学校	小菅村
8/13-15	冒険	やまめキャンプ・いわなキャンプ	小菅村
8/11-20	野人	タイ環境学習キャンプ	タイ
9月中	主催	INCH まつり	小菅村
12/23-25	冒険	まふゆのキャンプ	小菅村

- ・ログハウスづくり第 4 弾「トイレ棟づくり」継続中です。興味ある方は事務局まで！！
- ・植物と人々の博物館は小菅村内の中組地区、事務局が事務局の黒澤家に移転となりました。

平成29年度 特定非営利活動にかかる事業会計収支計算書
平成29年1月1日から平成29年12月31日まで
特定非営利活動法人自然文化誌研究会

科 目	金 額 (単位:円)		
I 収入の部			
1 会費収入			
会費収入		673,000	
2 事業収入			
(1) 野外環境学習事業収入	1,678,928	1,678,928	
(2) 指導者養成事業収入	0		
(3) 博物館事業収入	0		
3 委託事業収入		228,632	
4 補助金等収入			
助成金収入		2,000,000	
5 寄付金収入			
寄付金収入		804,213	
6 雑収入		31,000	
当期収入合計(A)		5,415,773	
前期繰越収支差額		3,634	
収入合計(B)			5,419,407
II 支出の部			
1 事業費			
(1) 野外環境学習事業費	569,029	602,669	
(2) 指導者養成事業費	33,640		
(3) 博物館事業支出	0		
2 一般管理費			
(1) 職員給与	1,560,000		
(2) 通信費	66,469		
(3) 事務局運営費	58,829		
燃料代	143,840		
電話代	252,234		
事務用品費	76,712		
書籍資料代	0		
印刷・製本費	162,800		
備品代	212,242		
3 予備費	552,321	2,533,126	
4 補助金支出		552,321	
助成金支出		2,000,000	
当期支出合計(C)			5,688,116
当期収支差額(A-C)			-272,343
時期繰越収支差額(B-C)			-268,709

成合基金: ¥204,700

平成29年の決算報告について出納簿等提出された書類に基づき監査した結果その内容は正確であることを認めます。

平成 30 年 / 月 30 日

監査員
同

瀬谷 勝頼
永 永法

■ 活動案内 ■

その1 「野草の天ぷらとお茶つみの会」 4.29(デイキャンプ)

毎年恒例の「野草の天ぷらとお茶つみ」のデイキャンプをやります。普段は「葉っぱ」「雑草」として見落としがちな野草でも食べられるものがたくさんあります。野草を摘んで、天ぷらにして食べましょう。また、自分たちでお茶をつみ、蒸して、揉んで、飲みましょう。樹木医の岩谷美苗さんによる恒例の「キノコ探し」もメニューに予定しています。フランス料理の高級食材「モリーユ」が見つかるかも？雨天決行です。友人・知人を誘ってぜひご参加下さい。



日 時 : 4 月 29 日 (祝) 9:30~15:00
場 所 : 東京学芸大学 環境教育研究センター (農場)
対 象 : どなたでもご参加ください♪
参加費 : 中学生以下 : 300 円 高校生以上 : 500 円
* 当日参加 OK です。事前申し込みは不要です。
* 雨天決行です。
* 昼食、帽子、飲み物は持参をお願いします (天ぷらをするのでおにぎりなど。)
* 余裕のある方は 9 時ぐらいに来て準備を手伝ってくださると嬉しいです (^ ^)

← 採れたたくさんの野草！この後、天ぷらです。

← お茶も朝からみんなで揉みます～。

その2 冒険学校『むらまつりキャンプ』 5.3~5.6(2泊3日)

新緑がまぶしい、多摩川源流の小菅村でキャンプを行います。清流での川遊び、焚き火、山菜採り、テント泊、ご飯づくり、五右衛門風呂、お祭りの見学などなど、多くのプログラムを準備しております。

小菅村の「第31 回多摩源流まつり」も開催されます！夜は、日本一のお松焼きと、山に響きわたる花火大会も見に行きます！ご家族での参加も可能な、ゆったりとしたキャンプですよ～！！



日程 : 5 月 3~6 日 (2 泊か 3 泊か選べます！)

場所 : 小菅村のいつものキャンプ場

対象 : 子どもだけの場合は小学校 3 年生以上、
親子参加の方は幼児も OK です。

宿 泊 : テント泊、ログハウスでの寝袋です。

参加費 : 食費・宿泊費・保険代・教材費・奥多摩駅～小菅村間の交通費を含みます。

3 泊 : 会員 : 子ども ￥26,000 非会員 28,000 円

3 泊 : 会員 : 親子一組 ￥35,000 非会員 41,000 円

※先着順で 25 人の定員です、お早めどうぞ！！

※これ以外の組み合わせの時は、ご相談いたします。

※短い日程でも参加できます。割引あります。

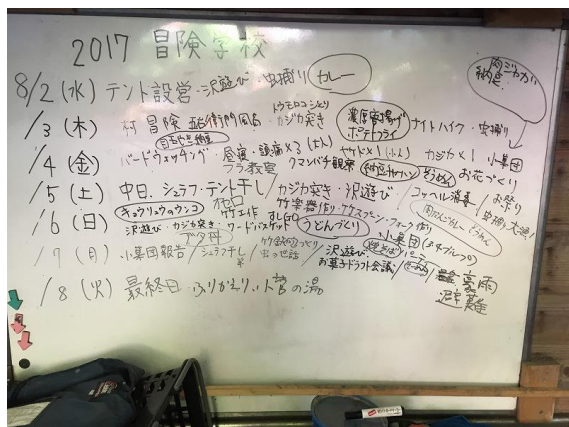
※会員になると、今回から会員料金で参加できます。

* 参加希望者は、ハガキ・もしくは E-mail に住所・氏名 (ふりがな)・年齢 (学年)・性別・電話番号を記入の上、4 月 20 日 (金) までに事務局までをお申し込みください。

その3 冒険学校「こすげ冒険学校」**8.4~8.10(6泊7日)**

小菅村の自然と文化を満喫しながら過ごす 6 泊 7 日の長期キャンプです。川遊びでは飛び込んだり、魚がいっぱいいる淵で泳いだり、魚を捕ったり、思う存分に遊び続けよう！！寒くないように焚き火をしながら、お風呂も沸かしておこう。毎晩星を眺めながら眠になったら寝てしまおう！！一緒に山の中や村の暮らしを探検する 7 日間です！

日程：8 月 4 日（土）～8 月 10 日（金）6 泊 7 日
 場所：小菅村のいつものキャンプ場
 宿泊：テント・ログハウス・野宿などで寝袋
 対象：小学校 3 年生～中学校 3 年生 20 名
 参加費：会員：¥30,000 非会員：¥32,000
 申込み：7 月 13 日（金）まで、先着順です。



今年はどんなプログラムになるか、楽しみですわね！？

その5 冒険学校「やまめキャンプ」「いわなキャンプ」 8.13~8.15

「小菅村をぜひ体験してみませんか？」 キャンプをしながら、小菅村の自然と文化を感じるキャンプを行います。親子での参加が可能なキャンプです。大人の方もお子さまと一緒に、小菅村の自然や文化に触れてみませんか？ 一緒にキャンプをしながら、野外で食事をつくり、思いっきり遊びながらテントで休みます。「自然」という名の遊び場は最高ですよ。今年も「やまめキャンプ」「いわなキャンプ」と連続して行います。連続で参加して 2 泊 3 日のキャンプにすることも可能ですよ～！！

「やまめキャンプ」：8/13～14 1 泊 2 日 「いわなキャンプ」：8/14～15 1 泊 2 日

※連続での 2 泊 3 日も OK でゆっくり過ごすこともできます！

場所：小菅村のいつものキャンプ場

宿泊：テント・ログハウス・野宿など

対象：小学校 3 年生以上は子どものみの参加可能。20 名

申込み：7 月 20 日（金）まで、先着順です。

参加費：1 泊 2 日親子での参加：20,000 円(会員)

※ 連続参加、子どものみの参加は割引します。



お子さんと一緒に沢登り



白糸の滝ツボヘダイブ！！

参加の申込は事務局まで、E-mail かハガキで、氏名（ふりがな）、住所、電話番号、年齢（学年）をご記入の上、お気軽にお申込ください。お待ちしております～♪

この事業は 2017 年度 国土緑化推進機構「緑と水の森林基金」の助成を受けて開催します。

『藤農便り』 第 12 号

宮本茶園 宮本 透（自然文化誌研究会）

この冬は風邪やインフルエンザが大流行、皆さんの健康管理はいかがだったでしょうか。私は昨年末 40 度を超える高熱で 5 日間寝込んでしまいました。厳しい寒さが続き、1 月下旬の佐野川は日没頃の気温が氷点下になります。凍えて帰宅しますが、昨冬の教訓からファンヒーターを大型に買い換えたので家の中は快適です。私事になりますがクリスマスに娘が女の子を出産、元旦に対面した初孫は娘以上にかわいらしく溺愛しそうです。



・藤野地域チキンの会 金剛山チキンプロジェクト

藤野は、地域住民が協力し合い持続可能な街づくりを目指すトランジション・タウンの活動が盛んです。テーマごとにいろいろなワーキンググループがあり、お百姓クラブは「食」と「農」に興味を持つ人たちが集まって様々な活動しています。大豆・雑穀・和綿栽培、藤野シードバンク管理、地域チキンの会などテーマは広範です。

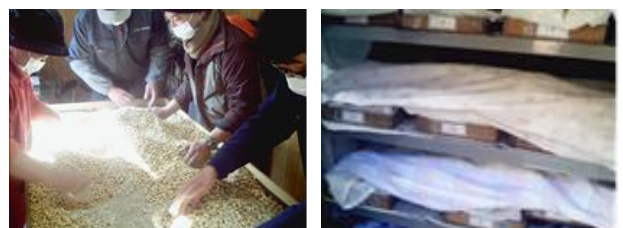
地域チキンの会は集落ごとに鶏を共同飼育する取り組みで、私は昨年 9 月金剛山チキンプロジェクトに入会しました。ちょうど新しい雛が入ったばかりの時期で、最初の仕事は雛を獣から守るための鶏舎整備でした。以降の飼育は、メンバーが交代でエサを与え吸水器にきれいな水を入れ替えています。月 1 回全メンバーが集まる共同作業では鶏舎清掃・除草・環境整備等を行い、交流を深めています。年末の忘年会、その日にとれた 1 個の初卵を皆で少しずつ味わった事は楽しい思い出になりました。1 月の作業日、鶏舎にはイタチらしき獣に殺された雄の屍が横たわっていました。命を賭して雌を守った勇敢な雄にスタッフ一同合掌、自然の厳しさを学びました。

自炊をしない私ですが、家庭の生ゴミをエサにした鶏が産んだ卵を食べる事・鶏フンを肥料に使うておいしい茶や野菜を育てる事を楽しみながら、今年は自給自足・持続可能なライフスタイルに取り組みます。

・相模湖里山暮らしの会 ちーむゴエモン

「みんなで五右衛門風呂を作って持続可能なエネルギー、森林資源や水資源、地域の助け合い等について考え、実践してみよう！」と相模湖でトランジション活動する人たちのグループです。津久井在来大豆や古代米・麦を栽培して味噌・醤油を手作りし、映画上映や古文書読書会等、様々なテーマに取り組んでいます。

醤油作りの活動拠点は千木良のヤギ苑、本格的な麹室があり中心メンバーの高橋さんの指導のもと製造グループは泊り込んで作業をします。私は牧馬・金剛山チームに参加、1 月 9 日～12 日の合宿で醤油と味噌の麹を仕込みました。チームリーダーは牧馬の飯野さん、メンバーが手分けして前日までに小麦を焙煎、大豆と米を浸漬してくれました。1 日目は朝集合・作業説明後二手に分かれて、大釜で大豆を煮る作業と粉碎機で焙煎小麦を引き割る作業を行いました。続いて煮えた大豆を人肌に冷まして引き割り焙煎小麦と混ぜ合わせます。種麹をつける床もみ作業の後、24 箱の麹ぶたに盛り込んで 30℃に設定した麹室に並べました。



午前中の醤油麹に続き、昼食後は味噌麹の仕込みを行いました。麹ぶたは 2 時間おきに検温し、40℃

を超えないよう細心の注意を払って管理します。2 日目の昼頃から麹菌が活発に繁殖し室温や品温が上昇、醤油麹をかき混ぜ品温を下げる手入れをして温度が均一になるよう麹ぶたの入れ替えをします。麹作りは温度管理が基本で、気を抜くと納豆菌が進入して台無しです。夜は交替で 1 時間おきに検温しました。

3 日目の午後は出来上がった味噌麹を使って味噌を仕込みました。4 日目の午前中に醤油麹が出来上がり、塩切りして樽に詰めました。



牧馬・金剛山チームの醤油樽は日連の尾崎さん宅に運んで水を入れ、天地返しをしながらゆっくり熟成させていきます。醤油作りは初めての経験、一年後の出来上がりが待ち遠しいです。

・冬の畑仕事

昨秋の足柄視察研修会に続き、年末に秦野の高梨茶園を見学しました。品評会や共進会で上位入賞する茶園は稲ワラやススキが多量に敷き詰められ、木を見ると深緑色の分厚い大きな葉が隙間なく枝についています。豊穡な土作りには有機物を入れることが大切で、高梨さんは3町歩の茶園へ12月末までに敷き詰め終えるそうです。茶の旨み成分アミノ酸生成には窒素が必要で、鶏フン・豚フン・油カスなどの肥料を使いますが、施肥量目安もていねいに教えていただきました。

秋製枝が終わってからは相模湖の大豆殻・ゴエモンや農協からいただいた稲ワラ・駅前畑の雑穀ワラを運んで畝間に敷き詰めました。さらに地主さんの許可をいただき、山に入ってはススキを刈り畑に運んでいます。1 月半ばからは米ヌカと豚フンを施肥しました。1 月 22 日の大雪、積もった雪の重みで枝が折れるのを防ぐためゴム手袋をして 2 週間ひ

たすら雪かき、おかげで屋外の寒さも苦になくなりました。1 日の作業は 3~4 時間程度、富士山を眺めながらのんびりやっているためか、急斜面の昇り降りにも古傷の膝痛は今のところ出ていません。

研修会で松田町寄地区の農家が管理できなくなった茶園を市民が再生させる取り組みを学びました。にほんの里 100 選になっている佐野川の茶畑景観ですが、寄と同じように農家だけで管理するのが難しくなっています。1 月 16 日木村普及員の指導で、上岩の手入れされなくなった茶園再生の整枝作業を行いました。参加者は藤野茶業部有志と市民の 6 名、茶畑の仕事は初めての人もいましたが持ちよった機械を使って手際よく伸び放題の枝を刈りました。1 日がかりの仕事になりましたが、手入れされた茶園景観は気持ちのよいものです。今後の取り組みは茶業部で話し合っていますが、市民の協力を得て農村里山景観維持活動を継続したいと思っています。



・雑穀街道情報

雑穀街道普及会は雑穀街道の F A O 世界農業遺産認定を目指して、今年も各地区で様々な取り組みを行います。小菅地区は雑穀見本園、藤野地区は自給農耕ゼミ雑穀栽培講習会を昨年引き続き準備していますので、自然文化誌研究会事務局にお問い合わせください。西原地区から雑穀トラストについて案内がありましたので次ページにご紹介します。

藤野地区 自給農耕ゼミ雑穀栽培講習

問い合わせ：宮本透 090-2205-8476 まで

西原地区（上野原市）からご案内

雑穀トラスト「つぶつなぎ」 <<会員募集中>>

山梨県上野原市の山村、西原（さいはら）。傾斜の畑で出会うおじい、おばあたちは、昔から鍬一本で畑を耕し、自分たちが食べるものは自給していたといいます。彼らが作っている作物には、先祖代々受け継がれてきた地のものも多くあり、その一つにきび、あわ等の雑穀があります。

彼らが雑穀を作らなくなったら、先祖代々受け継がれてきた種は消えて無くなってしまいかもしれない。今では日々当たり前に食べている雑穀も、当たり前のものではないと感じるようになりました。

数年前から種を分けてもらい、雑穀の栽培に取り組んでいます。しかし、雑穀は野菜よりも収穫までに時間がかかるうえ、真夏の草取りや鳥よけネットの設置など、何かと苦勞が多い作物です。

この地に受け継がれてきた雑穀の種を次世代につなげたい、貴重な雑穀をより多くの方に食べてもらいたいという思いから、雑穀トラスト「つぶつなぎ」を始めることにしました。みんなで共につくり、食べるという取り組みです。山村に広がる畑が、色とりどりの雑穀で埋め尽くされることを夢みて、より多くの方の参加をお待ちしております。

やまはた農園 富澤 太郎

トラスト制度のしくみ

会費 一口 5,000 円。以下の特典、メリットがあります。

① 雑穀セットが届く

返礼品として、3 種類の雑穀（もちきび、もちあわ、高きび・各 160 グラム）が冬（12 月～2 月）に届きます。

② 援農でポイントがたまる

きび、あわ、高きびの栽培に援農という形で関わっていただけます。援農に来ていただいた方にはポイントをプレゼント。ポイントは、イベントなどの参加費割り引き券や雑穀と交換することができます。

③ 雑穀が割り引きに！

やまはた農園の雑穀を定価の 20%OFF で購入できます。例えば、¥3,750/kg が ¥3,000 に。

※ 会員の期間は、会費の振込日から 2019 年 3 月末日までです。

【問い合わせ・申し込み】

やまはた農園 富澤太郎

メール：taro.tomisawa@gmail.com

電話：090-1269-0235

丹波山村～小菅村～上野原～藤野をつなげた「雑穀街道」と「FAO 農業遺産」に関するシンポジウムを 4 月 9 日（月）の午後開催予定です。詳細が間に合いませんでしたので、ご興味のある方は事務局までお問い合わせください。本会の第 40 回環境学習セミナーにもなっています。

日時：2018 年 4 月 9 日（月） 場所：山梨県上野原市役所 展示室 3 13:00～16:00

参加者：関心ある方々どなたでも 参加費など：無料

主催：NPO 自然文化誌研究会／雑穀街道普及会 共催：農業法人藤野倶楽部、NPO さいはら、ほか

『INCH の楽しい仲間たち』 vol. 7 その 14

『冒険探検粉塵記 第 14 話 起源を探る風狂の旅』

駄作者 文福洞先斗

なにごとも変はりのみゆく世の中におなじかげにてすめる月かな
さびしさに堪へたる人のまたもあれな庵ならべむ冬の山里
吉野山去年のしをりの道かへてまだ見ぬ方の花をたづねむ
西行法師

月日は百代の過客にして、行きかふ年もまた旅人なり
舟の上に生涯をうかべ、馬の口とらえて老をむかふるものは
日々旅にして旅を栖とす。古人も多く旅に死せるあり
よもいづれの年よりか、片雲の風にさそはれて、漂泊の思ひやまず
海浜にさすらへ、去年の秋江上の破屋にくもの古巢をはらひて
やや年も暮、春立てる霞の空に白河の関こえんと
そぞろ神の物につきて心をくるはせ、道祖神のまねきにあひて
取るもの手につかず
松尾芭蕉

余の風狂もつとに風邪を招くようになった（ポンちゃん）。長らく世間からの出家を願いながら、家族に未練があり在家のままで過ごしてきた。俗心が抜けず、若干ドラえもん体型なので、情けないかな、風邪を引くようではまだ風狂がか細いのだ。

人類文明の退嬰はいよいよ大津波のごとく押し寄せている。終末時計は午後 11 時 58 分になったそうだ。近未来はどうなるのだろうか、引き波は何を奪っていくのだろうか。海の底の流れは緩やかであろうが、海面の潮流はせわしく蛇行していく。夢の超特急の現代社会は巨大に膨れ上がった不安から、世界中で数知れぬ悪意が満ちてきている。人々は教養と信仰に対する信義を衰微させてしまった。

多くの人々がそうであったように、余も旅に拠って学びを深め、教養を積んだつもりだ。穀物、雑草、一年生植物の起源を探ることが、植物に依存する人類の古代文明の源流へと遡り、そこから原理・原則を学び直し、生き物の先真文明の時代を誠実に暮らすことにつながるのだと考えるようになった。北極星は地球から見れば、ほとんど不動で大海原を旅するには良い道標だ。原点、原郷、原典こそが温故知新、混迷の現代文明を真文明へと導き、メービウスの環から脱して、再生の鍵を与えてくれるだろう。

表層の流行に追われ、走り続ける世相、これを生物学にたとえて言うと、生理学でぶっかけ実験をすれば、それなりに植物は反応して、これを機器分析にかけると限りないデータが出てくる。短い論文は短期間に増産される。しかし、それは消費・廃棄されるにすぎず、ほとんど残ることはない。これが嫌になったのは、20 代前半のことであった。そこで生態や形態の遺伝進化学の方向に進むことにした。機器分析よりも、野外で観察、実験することで、確かな事実による植物の生活史を明らかにしたかった。長期間のかかる実験であり、論文の量産はできない。さらに、植物と人間の関係史を求めて、民族学の領域に踏み込んだ。人生の学問の旅に限りはない。

このくにでは教育を再生すると言いながら、いつまでたっても所詮は有名校に入ること、受験での成功に関心を置いているにすぎず、教育、学ぶことの本質を見失ったことへの反省はない。学びの根源、人生に求めるもの、本質こそ大事だ。自由に探究する楽しみ、幸せに暮らすこと、家族や地域、世の中の役に立つこと、学

びの本質はここにあるのではないのか。有名校に受かったからと言って、それはほんの一握りの人にとっての、しかも単に始まりにすぎず、幸せで意義のある人生は、それで手に入るわけではない。短い人生でも、それは一連の時間だ。学校など行かなくても、学びの機会はいくらでもあるし、幸せになることはできる。20 万人余りの非登校の子どもたちがなぜ学校を嫌がるのか、いじめが無くならず自殺に追い込まれるのか、大人社会の根本の要因を見ないふりで、避けていては、子どもの未来もこのくにの将来も危うい。家族や地域社会を守ることに、人任せではいけないんだ。地域創成などと言って行政任せ、憲法改正と言って政党任せ、市民や多く民が主体であるはずだ。湯水のごとく税金を無駄遣いしないで、もっと自分で学び、考え、細やかな私財や私力で社会のためにも働くことだ。

かつて若い頃、旅は風任せであった。次は自分で計画するようになった。老いてきた今は旅行会社任せである。人任せはとても楽である。しかし、そこに退行が潜んでいる。このくにの人々は、人任せばかりするようになった。最近では AI とまで言い出して、ついに人間はいらなくなってしまふ。それが幸せなのか。自律できないように習慣づけておいて、自己責任と言って突き放す、世間は冷酷だ。それが世間であれば、やはり自律して生きるように、自助鍛錬せねばならない。それなら自己の意思する風狂に身も心も任せるべきだろう。

旅での出会いは、自分を育てる。壮麗な自然景観であれ、美しい花々であれ、荘厳な大聖堂であれ、閑閑な茅葺民家であれ、上手な絵画や深遠な書物であれ、働く人々や寛ぐ人々であれ、出あった人々、事物、事象はとても愛おしい。温故知新、根源を探る人生の旅を楽しもう。人間は自然が好きだったし、人間は人間も好きだった。そこで、植物と人々の博物館の特別展示では、余の植物の海外調査道具と採集野生植物をお見せすることにした。ぜひ、お越しいただきたい。面白いぜ、旅は！！



蒙古族の人と内蒙古砂漠化調査、ライ族の人とヒマラヤ登山学校

『INCH の楽しい仲間たち』 vol.8 その 2

スコットランドヘウィスキーを飲みに (2)

佐伯 順弘 (岐阜県)

2012 年 8 月。台湾高雄に赴任していたときの夏休みに、初めてスコットランドを訪れた。

その話は前回書いたが、今回はその続きである。前回の原稿では地図が近くにあると楽しいとのコメントをいただいたので、地図を載せたいとも思ったのだが、著作権をクリアできるのかわからないため、載せることを断念。お手元に地図帳をご用意の上、移動状況を確認しつつ、読んでいただければ幸いである。

さて、前回の続き。グラスゴー国際空港からロンドン・ルートン空港へ EasyJet で飛ぶ。到着後、ルートン空港をしばし探索。ロンドン近郊にあるこの空港はロンドン中心部から約 50 km 離れており、LCC が 10 社ほど乗り入れている小さな空港である。しかし、スタバの他、Nero や Costa などカフェも多く、快適に過ごすことができる。ロンドン中心部へはバスと列車を乗り継いで行く。ふとスタンドをみると、以前から食べてみたいと思っていたコーニッシュパイがあるではないか。



(これがコーニッシュパイ。)

これはミートパイといった感じのもので、これがまたうまい。くどいが、どこをどう切り取れば、イギリスの食べ物がまずいという結論に達するのか理解できない。ここでふと考える。自分は今までまずい食べ物に出会ったことがあったのだろうか。あるといえばある。確かに中国では時々とんでもない地雷を踏んだことがある。しかし、それよりも多い

のは、圧倒的に日本なのである。冷静に思い返してみると、世界で最も多くまずい食べ物と出会ったのは日本ではないか。日本で食べる機会が最も多いのだから当たり前だとも言える。イギリスでの滞在は長くないが、今のところ、まずい食べ物には 1 つしか出会っていない。某有名コーヒーチェーンのカフェラテである。あれはまずかった。何か薬物でも混じっていたのかもしれないというレベルのまずさだった。もちろん、食べ物について「まずい！」と口にするのはまずくない。どれほど口に合わなくてもありがたくいただいている。食べ物についてまずいなどと口にするのは、修行が足りないからであり、基本的に下品な行為なので、思っても言わない。



(鉄道駅まで乗ったバス GBP1.5 ≒ ¥450)

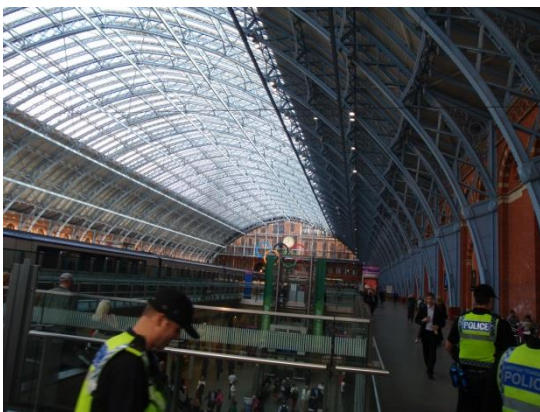
さて、コーニッシュパイを楽しんだ後、鉄道駅までのバスチケットを自販機で買い、早々にバスに乗り込んだ。どうして、海外のバスはこうも快適なのだろうか。日本のバスとは大違いである。あの砂漠の中を走った埃だらけの中国の深夜バスでさえ、さらには内戦が 3 日前に停戦合意された時に乗ったスリランカのトリンコマリ行きのバスでさえ、日本の観光バス、路線バスより格段の快適さである。最近では日本のバスであっても夜行バスはかなり快適になってきたようだが、それ以外のバスは快適と言えないものが圧倒的に多い。ここで日本のバスについて論っても詮無きことである。止めよう。さて、乗り込んだルートン空港から鉄道駅までのバスは

臭くない、座席は広い、座り心地が大変良い。もうそれだけで満足なのだが、驚いたことに、出発までの間、運転席近くでバス会社の人だと思われる人が、ちょっとした話をしてくれたのである。これは偶然、そういう人に当たっただけかもしれないが、必死に聞く困難さを差し引いても、楽しかった。「それじゃ、出発するよ。」とその人は言った。なんと、そのバスの運転手だったのだ。身も心も快適な状態でバスは出発した。駅までのそう長くないバス旅だったが、楽しい時間になった。



(ロンドン中心部まで乗った列車。)

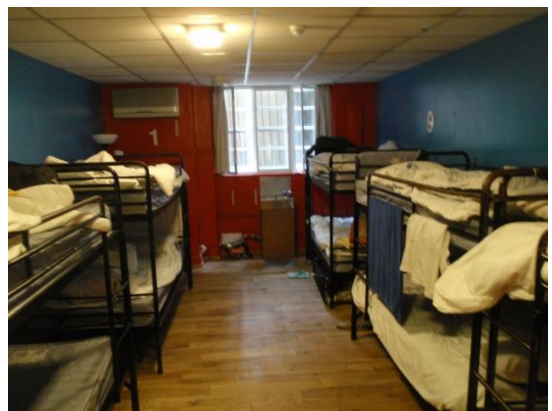
その後、Luton Airport Parkway station からロンドン中心部 St.pancrase station まで列車にのって約30分。



(駅構内はこんな感じ)

St.pancrase station についたら、頭の中に入れた地図に従い、Generator hostel にたどり着く。学生の頃から心がけていたが、道端で地図を広げるなんて間抜けなまねはしないし、ましてや「歩き方」を広げるなどという恥さらしなまねはしない。どうしてもというときは、カフェに入って、さっとチェックするだけ。地図やガイドブックを広げないことは安全確保の基本である。

めざすホステルに無事到着しチェックイン。この Generator hostel はその後ロンドンでの定宿となっていくのだが、前回も書いたように夜中～朝方にクラブ帰りであろう若者がへべれけで帰ってくるところが退廃的でいかにもステレオタイプなロンドンのイメージそのものを体現しているような場所である。部屋は男性用ドミトリー。2段ベッドが5つの10人部屋。各個人が場をわきまえているのだろう。適度に片付けられていて不潔な感じはない。シャワー・トイレは、部屋の外で共用。朝食も安く食べられる。何一つ不自由はない。快適な宿である。



自分のベッドを確認し、荷物を整理したらサブザックを背負って街へ出かける。こちらで合流することになっているオリンピックフリークの旅仲間に会うためだ。

まずは地下鉄駅に向かい、オイスターカードというものを買う。日本でいうところの suica などの交通カードである。



(地下鉄は路線によって狭いものもある。)
ロンドンの地下鉄は東京のそれよりも若干わかりやすく利用しやすい。思ったよりも簡単に旅仲間と再会し、近くのパブに入る。



スコットランドヘウスキーを飲みにいったのだが、ビールを飲まないわけではない。しかもここはイングランドである（確認するまでもないが、イギリスはイングランド、ウェールズ、スコットランド、北アイルランドの4つの国で構成されている）。アイラ島ではホテルのバーで飲んでいたので、パブは初めてである。ややぬるいエールビール、そしてフィッシュ&チップスである。二次大戦でドイツのUボートがイギリスへの補給路を断ったため、フィッシュ&チップスができたのだと私が学生の頃の社会科教員が言っていた。しかし、調べてみると19世紀の中ごろには既に完成されていたことがわかった。教員は真実を語るとは限らず、個人的な間違った認識を垂れ流している場合もあるのだと思い知らされ、残念な気持ちになったものだ。しかし、そんなことがあろうとも、この素晴らしい組み合わせの価値がわずかでもゆるぐことはない。ビールがうまい、魚がうまい、そしてジャガイモがうまい。何の文句があろうか、ドン！（机をたたく音）いや、ない。そうこうするうちに夜は更け、我々はそれぞれの宿泊地へ戻っていくのであった。

ここで気づく。今朝までアイラ島にいたのだと。明日から本格的な旅の後半戦が始まる。

DAY6

糖質が多いホテルの朝食をじっくり味わった後、King's Cross stationで旅仲間と合流。そこで、お子様方に交じって、若干恥ずかしい写真を撮る。



（シャーロックホームズ博物館）

言わずと知れた魔法少年がカートを押して壁に突っ込むシーンである。その後、地下鉄に乗り、Baker Street tube stationへ。読書家でなくとも知っているであろう。そう、シャーロックホームズに出てくる地名である。

こういうのを作ってしまうところが粋だなあと感心してしまう。中には小説に関わる展示、そして帽子を被り、パイプを持って写真を撮るコーナーまである。存分に楽しんだ後、近くの公園に行く。この公園には巨大スクリーンが何面も設置され、競技を楽しめるのだ。



（公園に設置された何面ものスクリーン）

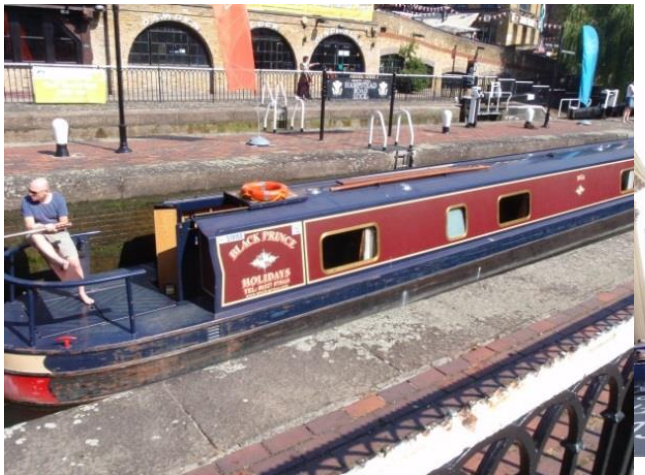
ウッドチップが敷き詰められた地面に座り、ビールとF&Cを味わいつつ、オリンピックゲームを楽しむ。いい気分だ。しばらく、観戦した後、バックingham宮殿などの観光地を回る。

DAY7

大英博物館へ。さすがである。世界各国からの品々がこれでもかっというくらい並べられている。全部が全部正当な対価を払って手に入れたもので

はないともいわれているが、このように整然と展示されているのを見ると、あるべきところにあるのではないかという気がしてくる。(個人的な感想であり、返還を求める各国の主張を無視しようとしているのではない。)

世界史で学んだと記憶している展示が多数あり、これは中国・西安の碑林博物館で「大秦景教流行中国碑」を見つけたのと同様の感動があった。学校の勉強が役に立つこともあるのだ。それにしても、ロンドンの人々は、この世界トップレベルの遺産に無料で接することができるなんて羨ましい限りだ。その後、パブでビールを飲みながら一休み。ミュージカルのチケットを買い、「WE WILL ROCK YOU」を見る。QUEEN の楽曲が使われている作品。だいたいわかったのがうれしかった。



DAY8

ナローボートに乗って、のんびりとアビーロード方面に向かう。ビートルズが横断歩道を渡っているジャケットで有名なアビーロードスタジオがある場所である。世界各国からのファンが来ている。落書きも多い。当然、横断歩道ではジャケットのような写真を撮ろうとする人々多数あり。夜はミュージカル「THE LION KING」を観る。話は知っているだけによくわかった。みんなすごい身体をしている。他にも見たい作品多数。やはりロンドンに来たらミュージカルは外せない。

DAY9

公園の池で遠泳競技。公園も池もとても大きいので成り立つ。解説付きでテレビで見るのもいいが、実際に見るのも楽しい。



DAY10~14

その後、ロンドンの有名どころを観光したり、自然史博物館でダーウィンの銅像と写真を撮ったり、新しいパブを発見したりして、2週間のイギリス旅行を終えることになる。

後半はオリンピックとロンドン観光とパブの日々だった。チケットがなかったので、スタジアムでの観戦はできなかったが、公園の池での競技を観戦したり、巨大スクリーンでのんびり観戦できたりしたのはよかった。音楽フェスのような閉会式もユースホステルのラウンジでいろんな国の人と一緒にテレビで楽しんだ。文化と歴史、日本ではあまりみないほどのおもてなしの精神があふれているイギリスにかぶれてしまったのは言うまでもない。その後、3回もイギリスに通うことになるのだった。

今回は、この旅のたった4か月後、ロンドンのクリスマスとエディンバラのホグマニーを楽しみに行った話を書こうと思う。

(つづく)

『INCH の楽しい仲間たち』 vol.9 その 1

『世界の森林減少とその課題を解く（1）～教育実践から研究へ～』

長濱和代（東京大学大学院 新領域創成科学研究科 博士課程）

インドのヒマラヤ山麓にある村に数日前から入り、この文章を書いています。今回はウッタラーカンド州での森林調査と大学での講義、そしてシッキム州にある大学での国際会議に参加するために、1 か月余りの日程でインドに滞在中です。

私は 2011 年まで小学校教員をしていて、2005 年の頃は荒川区の第六日暮里小学校で理数（算数と理科）の専科教員でした。その時に初めて花王教員フェローシップに応募し。初回目は不採択だったのですが、2 回目の応募で採択されて、2006 年に国際環境 NGO アースウォッチのプロジェクトに参加する機会を得ました（審査員はアースウォッチ・ジャパンの事務局長、当時東北大で教員をされていた石田秀樹先生と、登山家の今井道子さん）。採択先はケニアで、マングローブ林のプロジェクトへ派遣されました。

○ケニアでの体験①（ホームステイ）

ケニアでの滞在は、大変刺激的でした。まずそのプロジェクトに参加する前に、インターネットで探した旅行代理店を通じて、3 日間、ナイロビの郊外にホームステイをしました。電気もガスもないホストファミリーのお宅では、夜は星を眺め、雨水をためた水を飲み水として食事を作る時に利用し、さらに残り水でシャワーを浴びるなど、大切に水を使っていました。また薪を利用して食事の支度をしたり、暖を取ったりしていました。夜の明かりはカロセン（灯油）で、各部屋にランプがあり、それらを日常的に利用していました。今まで私は、枯渇しないと思っている水やエネルギーを浴びるように使ってきたので、日本での暮らしを見直す契機となりました。

ケニアはどこ？



アフリカ東海岸 インド洋沿岸
(首都: ナイロビ)



薪を燃料として食事の支度をする
(2006年 ケニアにて)

ホストファミリーのお宅では牛や山羊など家畜を 10 匹以上も飼っていて、お金持ちのお宅であったようです。ホストであったお父さんにマーケットへ連れていってもらった時は、そこでの価格は驚くほど安く、日本の価格に換算してゼロが一つ足りないのではないかしらと思いました。紅茶に入れるスパイスやフィッグ（頭につけるかつら）など珍しく、日本ではおそらく絶対に買わないであろうと思われるものを買ひ、今でも折にふれ、それらを眺めては、またアフリカへ行く機会はないものであろうかと、思いを馳せています。

○ケニアでの体験から考えたこと（インド洋沿岸での調査）



アースウォッチによるプロジェクト調査地

などを学びました。調査活動では、マングローブの発育状況調査、マングローブ林の周辺で生息している生き物や種類の数量測定、その土壌調査、さらに植林活動等を通じて、マングローブはさんご礁や生き物と関わり、生態系を守っていること、さらに実験室では、燃やして乾燥させた炭素の量の調査、土壌に養分がどのくらいふくまれているか、また生物の数量測定データの打ち込みなどを経験しました。この具体的な調査の概要と報告はアースウォッチ・ジャパン HP の教員フェローのサイトにて、2006 年「ケニアのマングローブ」として文章と写真をアップしていただいていますので、ご覧いただければ幸いです¹⁾。

ホームステイの後はモンバサへ移動して、イギリスの研究者チームと世界から来たボランティアメンバーと合流し、タンザニア国境近くのカジ村で 10 日間の研究プロジェクトに参加しました。マングローブは、熱帯から亜熱帯地方の河口の近くで塩水や湿地に生育する森林で、かつて熱帯や亜熱帯地域の 4 分の 3 をしめていたのですが、生活手段や開発のために毎年 2% ずつ切られ、そもそも存在していた森林の半分以上に減ってしまったことな



フィールド・ワーク(2006年)
カジ村での土壌調査

このケニア沿岸のマングローブの調査を通じて、地域の生態系や森林等の資源の利用について学びながら、自分が最も疑問に思ったのは、沿岸地域に豊かに生い茂っていたマングローブがなぜ急激に減少したのかということでした。マングローブの急速な減少は、その地域だけの利用でなく、外部からの圧力によって起きているのではないかと考えました。考えられる理由は次のとおりです。

1. 製炭材のための伐採

1960 年代以降、農村部での自給自足生活から都市化への社会システムの変化に伴って炭や薪が商品となり、マングローブ林が大量に伐採

2. 農用地への転換

人口が増加と食料獲得のためにマングローブ林が水田に転用



用材としてのマングローブの利用
1本あたり約2ドルで取引されるとのこと(2006年)

またこうした外圧はケニアだけでなく、東南アジア諸国や南アメリカ、アフリカなど世界中で起きています。特に東南アジアでは、世界で消費されているエビの大部分がマングローブ域で生産されており、マングローブ林はエビ養殖池へ転換され、タイ、ベトナム、インドネシアのマングローブ林が減少してきました。自分の大好物だったエビの多くが東南アジア諸国から輸入され、現地では利益を上げるために、マングローブ林が伐採され、エビの養殖場を作られました。自分が口にしてきたエビは、マングローブと引き換えに生産されてきたと言えます)。また BBQ など屋外で利用する炭の産地を確かめると、東南アジア諸国で産出された表示を多く見かけます。熱帯林の減少の要因には、遠く日本に住む私たちがかわっているのです。

■1990年から2000年



■2000年から2010年



○世界の森林減少と課題

世界ではマングローブを含む熱帯林が減少していること、日本では戦後の造林政策においてスギ・ヒノキを植林する政策を推進してきたのですが供給が追いつかず、東南アジア地域から安い木材やチーク材などを輸入して、熱帯林の減少に加担してきたこと、等々、調べるほどに疑問が湧き、「なぜ世界の森林は減少し続けるのかしら」と考えるようになりました。さらに、10代の頃から解けない謎でもあった「経済的に貧しい国は（発展を遂げているとはいえ）なぜ貧しい国のままなのかしら」という、縮まらない先進国と途上国の経済的格差（いわゆる南北問題）との関連が見えてくるようになりました。2000年以降は世界の森林減少の速度は落ちたものの、東南アジア諸国、南アフリカ、南アメリカでの森林被覆面積の減少とその割合が高い状況が続いています。

○出前授業の推進

こうした課題がある中でも、中国、ベトナム、インドは、経済的発展を遂げつつも、森林被覆率が微増している傾向が見られます。これらの国の自然資源保全の政策を学ぶことによって、世界の森林減少の課題に迫ることができるのではないかと考えました。そこでインドの森林政策に着目して、現地ではどのような森林利用と管理が行われているのか研究を始め、2009年から教員をしながら大学の修士課程に進学して、インド・ウッタラーカンド州の州都デhraドーン（ヒマラヤ山麓の麓に位置する）にある森林研究機関を訪れるようになり、同州での森林調査を始めました。2011年には教員の仕事を辞し、2013年には博士課程に進学して、持続可能な森林資源管理について研究を進めています。また教員だったスキルを活かして、あちこちの小中学校や予備校で出前授業を展開しています。大学や病院等の専門機関からも声がかかるようになり、2016年からは、大学で非常勤講師を始めました。現在は博士課程を終えようと、奮闘している最中です。



インド・ウッタラーカンドの大学に招かれてのレクチャー（2018年）

今回は紙面がこれで尽きてしまったので、次回は滞在中のインドヒマラヤでのフィールドワークの魅力をみなさんにご紹介できればと思います。どうぞお楽しみに！

【参考文献・HP】

- 1) アースウォッチ・ジャパン HP 長濱和代「ケニアのマングローブ」2006年 http://earthwatch.jp/pi_oversea/pdf/2006kenya_nagahama.pdf
- 2) こうした事例は、「バナナと日本人—フィリピン農園と食卓のあいだ」（鶴見良行 1982）、「エビと日本人」（村井吉敬 1988）、「エビと日本人 II—暮らしのなかのグローバル化」（村井吉敬 2007）等の著作に詳しい。

○ 今後の活動予定のお知らせ (2018 年 春～2018 年夏)

- 4/9 『雑穀街道と FAO 世界農業遺産 シンポジウム』 @上野原市役所 展示室 3
 4/29 のびと講座 『野草の天ぷらとお茶つみの会』 @東京学芸大学環境教育研究センター
 5/3-5/6 冒険学校 『むらまつりキャンプ』 @小菅村 2泊3日 or 3泊4日
 5/4 『植物と人々の博物館 展示・縁側講座』 @小菅村 第31回多摩源流まつりの日に開催
 8/4-10 冒険学校『こすげ冒険学校』 @小菅村 6泊7日
 8/13-15 冒険学校『やまめキャンプ』 『いわなキャンプ』 @小菅村 1泊2日 or 2泊3日

※ 今年度の雑穀栽培講習会 (種まき) については、藤野町で自給農耕ゼミ雑穀栽培講習会が開催されますので、興味のある方は藤野町にご参加ください。 問い合わせ: 宮本透 090-2205-8476

※ ログハウスづくりは、第2・4週末を中心に作業を進めています。興味ある方は、メーリングリストに登録しますので、事務局までご一報ください!!

○ 事務局より

● 「九州に旅行に行って、堤くんに晩飯をおごってもらっちゃいました。ごちそうさま～!! クロ」

○ 事務局の麗しき日々

- ・あおいちゃんは 30 代になり、車も運転するようになったもよう。
- ・さぶちゃんが人生初の人間ドッグを受けたもよう。
- ・大ちゃんがいつの間にかパパになったもよう。
- ・翔くん「僕は運転が好きだから長野から 6 時間 下道で走れるよ!!」

○ 会員の皆様へサービスのお知らせ

神奈川県相模原市藤野町にある『藤野倶楽部』は今年も INCH 賛助会員です。INCH 会員への特典として、ナマステ今号を持参された方には「百笑の台所」の食事料金を 10%割引いたします。アクセスは藤野倶楽部の HP をご覧ください!!

○ 自然文化誌研究会 一緒に活動しませんか?

略称 INCH (インチ)。冒険・伝承・創造をキーワードに『国際的な視野で人間をとりまく自然と文化を野外において探求する野外環境教育のパイオニア』として、30 年以上にわたって活動を続けています。2004 年から NPO として再出発し、活動の中心を山梨県小菅村に移し、子どもを対象とした『冒険学校』や市民を対象とした『のびと講座』『ELF 環境学習中堅指導者養成講座 (のびと研修会)』などの山村の自然や文化を学ぶ活動を通じて、持続可能な社会を形成していく上で必須である環境学習の実践と農山村の振興を実現させるため、エコミュージアムづくりを行っています。

本会の運営は会員の皆様のご協力と、会費で成り立っています。ぜひとも会員の輪を広げていき、納入をお願い致します。本会の趣旨に賛同いただける方なら、どなたでも会員になれます。会員には以下 8 つの種類があります。なお、正会員のみが総会における議決権を持ちます。それ以外の会員は、総会にオブザーバー参加となります。会費は年額 (1~12 月) です。また、皆様からのご寄付も募っております。

正会員: 10,000 円 一般会員: 5,000 円

学生会員: 3,000 円 賛助会員 (個人・団体): 10,000 円

家族会員: 6,000 円 特別維持会員: 100,000 円

植物と人々の博物館友の会会員: 3,000 円

雑穀街道特別会員 (小菅特別から変更): 1 口 1,000 円から

成合基金 (冒険探検基金): 「成合基金」と記載してください。

郵便振替口座: 00100-2-665768

口座名: 特定非営利活動法人自然文化誌研究会



ナマステ 131 号

特定非営利活動法人 自然文化誌研究会 会報誌

<発行日> 2018 年 3 月 10 日

<編集> 自然文化誌研究会 事務局

<発行> 特定非営利活動法人

自然文化誌研究会

The Institute of Natural and Cultural History

<事務局> 〒409-0211 山梨県北都留郡小菅村 3337-2

TEL: 0428-87-0165・090-3334-5328 (事務局黒澤)

E-mail: npo-inch@wine.plala.or.jp

H P: <http://www2.plala.or.jp/npo-inch/>

事務局ブログ: <http://npoinch.naturum.ne.jp/> (あんまり)